

令和3年3月5日

令和2年度 練馬区立谷原中学校 学校評価報告書

練馬区立谷原中学校
校長 大槻 亨

1 自己評価結果

(1) 概要

本校では、「安全・安心な学校体制の構築」「豊かな心と健康な体を育む取組」「確かな学力の向上を図る取組」「魅力ある授業の構築」「地域との関わりを重視した教育活動」を学校経営の重点として教育活動を進めている。

「安全・安心な学校体制の構築」については、生徒の生命の安全・健康を最優先に考え、校内研修会の機会を活用してアレルギー対応や健康状態について全ての教職員で共通理解を図っている。日頃からいじめや事故の未然防止に努め、事案発生時には組織的で適切な初期対応を行う体制をとることができている。不登校生徒の対応には課題も多いが、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員等を活用し、教育相談体制を整えて生徒が支援を発信しやすい環境を整えている。

「豊かな心と健康な体を育む取組」については、生徒会や生活委員会が中心となって異学年や特別支援学級とのレクリエーションやあいさつ運動を計画しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施できなかった。

また、保健体育の授業や部活動等の活動を通して自身の健康保持と体力の向上に加え、自他を認め大切にできる心情の育成に努めている。今年度もオリンピック・パラリンピック教育を推進し、障害者スポーツやボランティアマインドの醸成に取り組んだ。

今後も生徒の自己肯定感を高め、自分を大切にするとともに他者を尊重できる意識と姿勢をさらに育む指導を深めていく。

「確かな学力の向上を図る取組」については、新型コロナウイルス感染症による臨時休業に伴う授業時数の不足が課題であった。水曜日6時間授業の設定や月2回の土曜授業日の実施、モジュール授業の導入を行い、授業時数を確保することができた。また、制限がある中ではあるが、生徒どうし話し合い活動や学び合い活動を重視した授業実践に努めている。

授業規律を徹底させ、落ち着いた学習環境を整えることができている。一方、家庭学習の定着については、タブレットパソコンの活用について具体的方策を検討していく。

また、実験・実習の授業補助や長期休業中の補充教室は新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防を行いつつ地域人材や学生ボランティアを活用した学習指導を行った。放課後学習教室（地域未来塾）次年度も継続して支援が必要な生徒への学習指導を行っていく。

小中一貫教育を推進し、小学校と中学校の交流を深めることで、小学校から中学校へのスムーズな接続と9年間の連続した学びにつなげている。

「魅力ある授業の構築」については、多くの教員がICT機器やタブレットパソコンを活用した授業展開を工夫している。生徒にとって分かりやすい授業を目指して3人組の研究グループによる研究授業を計画し、定期的に授業研究を行い、グループ内で教員相互が協議を行い、教員の授業力向上を目指している。新学習指導要領完全実施に向け、指導と評価について研修を深め信頼される評価・評定の実施に努めていく。

「地域との関わりを重視した教育活動」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からほとんどの地域行事が中止となった。また、職場訪問や上級学校訪問は訪問に変わる代替案を検討し、オンライン会議を活用した新たな方法を構築することができた。

また、広報活動としては、学校だよりの発行やホームページの更新を定期的に行い、保護者・地域に対し学校情報の積極的な発信に努めている。

(2) 根拠となる資料

※学校評価アンケートの「あてはまる：4点、ややあてはまる：3点、あまりあてはまらない：2点、まったくあてはまらない：1点」として点数化した（4点満点） （ ）内は昨年度との比較

	評価項目	保護者	生徒	教員
1	規律ある分かりやすい授業が行われている。	3.2(+0.1)	3.5(+0.1)	3.5(+0.3)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に落ち着いた雰囲気での授業が展開されている。 ・長期休業中の補充教室や放課後の補充教室は地域人材を活用して実施することができた。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や区中研教科部会等の機会を活用し、教員の授業力の向上に努めていく。 ・長期休業中の補充教室や放課後の補習教室を計画的に設定し、学力の定着に努めていく。 			
2	いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	3.3(+0.1)	3.6(+0.2)	3.7(+0.3)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を活用し、生徒自らがいじめや暴力の未然防止に取り組む意識を高めさせることができた。 ・道徳の時間を中心に教育活動全般を通して、豊かな心の醸成に努めていく必要がある。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーや心のふれあい相談員等を活用し、教育相談の機会を充実させていく。 ・ふれあい月間だけでなく、日常の活動を通じていじめの早期発見・早期対応に努めていく。 			
3	学校は子供たちが悩みなどを相談できる信頼関係がある。	3.0(±0.0)	3.4(±0.0)	3.4(+0.2)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回のふれあい月間アンケートを活用し、生徒の悩みの発見につなげている。 ・スクールカウンセラーや心のふれあい相談員と連携し、生徒・保護者との信頼関係を構築している。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・短時間ではあるが二者面談や三者面談の時間を活用して生徒が相談しやすい体制を整えていく。 ・生徒が周囲の大人に気兼ねなくSOSを出す方法を指導していく。 			
4	学校だより、学年だより、学校ホームページなどで学校の様子がよく伝えられている。	3.4(+0.1)	3.5(+0.1)	3.7(+0.3)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりや学校ホームページで教育活動の様子を公開することができた。 ・学年行事の学校ホームページ公開は、担当者を明確にして組織的に対応が必要である。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりの内容の充実を図り、保護者・地域へ教育活動を広めていく。 ・校内組織を見直し、学校ホームページの運営にあたっていく。 			
5	学校は子供のことで迅速に相談に応じている。	3.3(+0.1)	3.4(±0.0)	3.6(±0.0)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの教員で情報を共有し、迅速で適切な初期対応を実践していく。 ・生徒指導を行った際は家庭に連絡し、状況を報告するとともに家庭での指導を依頼している。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部会や特別支援委員会等を活用し、生徒の情報交換と共通理解を深めていく。 ・クラスや学年だけにとらわれることなく、学校全体で組織的な指導を行っていく。 			
6	学校は新型コロナウイルス感染症対策を適切に行い、教育活動を進めている。	3.4(—)	3.4(—)	3.4(—)
	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に起因するいじめや誹謗中傷を懸念したが大きなトラブルはなかった。 ・臨時休業に伴う精神的、肉体的な影響が心配である。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や保健委員会を中心に生徒の自発的な発想で感染防止の意識を高めていく。 ・道徳の時間を通して、差別をしない人権感覚を養う指導を行っていく。 			

	子供を安心して学校に通わせられる。	3.5(±0.0)	3.6(+0.1)	—
7	自己評価についての評価結果および主な意見			
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間のトラブルやからかい、悪ふざけはあったが、早期指導により解決させることができています。 服務研修や校内研修を通して生徒理解に努め、個に応じた指導にあたることができた。 			
	自己評価を踏まえた次年度の改善策			
	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談活動を充実させ、生徒・保護者の悩みや要望に答えられる体制を整えていく。 保護者の方に来校していただき、教育活動の様子を見ていただく機会を増やしていく。 			

2 学校関係者評価

(1) 総括

例年、年間3回の学校関係者会議を開いている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から1回のみで開催となり、忌憚のないご意見を伺う機会が減ってしまった。日常的に学校だよりや学校ホームページを通じて学校経営計画、教育活動の様子についてご理解いただいた。

①成果

- 授業規律も確立されており、落ち着いた学習環境が確保されていることは評価できる。その成果を客観的に検証する手立てを講じてほしい。
- 生徒・保護者ともに「子供を安心して通わせられる」の評価が高かったのは、何よりも良いことである。
- 学校行事や部活動が縮減される中でも生徒が活躍し自己肯定感を感じる機会が作られている。

②課題

- 家庭学習の習慣が身に付いていないと感じている保護者・生徒が多い。授業を充実させるとともに、家庭学習の習慣を確実に身に付けさせる指導をしてほしい。
- 長期休業中や放課後の補充教室、定期考査前の質問教室等は、ぜひ継続してほしい。
- 各学年に複数の不登校傾向の生徒がおり心配である。
- 学校ホームページによる学校情報の発信は保護者・地域の期待も大きい。これからも更新回数を増やして情報発信を続けてもらいたい。

③改善策

- 学習指導では規律のある授業を定着させるとともに教員の授業改善を継続していく。
- 家庭学習の習慣化に向けて、タブレットパソコンの活用について検討していく。
- 長期休業中や放課後の補充教室は、生徒の参加や運営方法を検討し、より効果的な実施に向けて検討していく。
- 学校公開日等来校の機会を増やすとともに、PTAや地域と連携を深めていく。

(2) 根拠となる資料

	項目	具体的な方策	自己評価に対する意見	学校関係者評価を踏まえた次年度の方策
1	安全・安心な学校体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解と共通理解 いじめや事故の未然防止、適切な初期対応 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は全体的に落ち着いた学校生活を送っている。 不登校やいじめ等現代的な課題解決に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の特性を理解し、適切な指導をしていく。 教育相談体制を充実させ生徒が安心して通える学校作りを行う。
2	豊かな心と健康な体を育む取組	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の推進 授業や部活動を通した基礎体力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 自発的なあいさつが定着化してきた。 学校の教育活動全般を通して、生徒は主体的に活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間や教育活動全般を通して道徳的実践力を醸成していく。 健康保持を意識させ、自身の体力向上につなげていく。
3	確かな学力の向上を図る取組	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を大切にす授業の実施 学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に授業規律は確立され、学力の定着につながっている。 補充教室の充実や家庭学習の定着を継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材を活用した補充教室や質問教室を計画し、基礎学力の定着につなげていく。 タブレットパソコンの有効活用を組織的に検討していく。

4	魅力ある授業の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を充実させた主体的・対話的で深い学びの実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やタブレットパソコンなどハード面は充実してきた。 ・ICT機器やタブレットパソコンを効率よく活用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の研修を通じて教員の授業力の向上を図っていく。 ・新学習指導要領の完全実施に向けてさらに研修を深めていく。
5	地域との関わりを重視した教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開と情報発信 ・地域との連携・協力の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや青少年育成委員会等地域行事ができず残念である。 ・さらに各種たよりや学校ホームページを充実させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや地域と連携を深め、行事に参加していく。 ・各種たよりや学校ホームページを組織的に運営し、情報発信に努めていく。

3 評価結果の公表等

評価結果は、次のように保護者・地域へ公表していく。

(1) 令和2年12月 保護者・生徒・教職員による学校評価アンケートを実施する。

(2) 冬季休業中 学校評価アンケート集計・分析・まとめを行う。

(3) 令和3年2月 学校関係者評価委員会で集計結果・まとめを提示し、意見交換を行う。
学校だよりで保護者・地域に公表する。

※今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から学校評議員会の開催を2回見送った。資料等をお送りし、ご意見をいただく形式で対応した。

(4) 令和3年3月以降 学校ホームページで保護者・地域に公表するとともに保護者会等の資料として活用していく。

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、臨時休業からのスタートとなった。感染症対策を徹底しながら学校を再開したが、学校行事はほとんどが中止を余儀なくされ、生徒の学習保障と感染症対策に奔走する日々であった。そのような中であって、本校生徒の生活全般についての総括として、落ち着いた学習環境が確保され、生徒・保護者ともに「安心して通わせられる」の評価が高かった。これは、新型コロナウイルス感染症を防止するための取組を教師と生徒が一体感をもって行うことができたことが要因の一つだと考える。活動に制約が多い中で、生徒が主体的に活動できるような環境を整え活動の充実を図ってきた。また、新型コロナウイルス感染症に起因するいじめなどを懸念したが、人権尊重の重要性を指導してきた結果、大きなトラブルとなることはなかった。

一方で、相手の気持ちを考えない言動や行動が見られ、いじめへの対応が必要となることがあった。未だ、他の人のことを思いやること、仲間への心遣いという面においては課題があり、今後も様々な体験を通して、周りの人の気持ちのわかる生徒に育てていかなければならない。

学力の向上については、基礎・基本の確実な定着を図るため、授業時間を確保し、授業規律を大切に学習活動を展開する。また、補習教室はもちろん、地域連携事業の授業補助やゲストティーチャー、地域未来塾を活用して、学習支援を必要とする生徒への基礎力定着にも重点を置く。思考力・判断力・表現力の育成に向け、言語活動を充実し、ICT機器等を活用した主体的・対話的で深い学びを実践する。そのためにも三人組研究授業のOJTを充実させ、教員の授業力向上を図る。

保護者・地域との連携については、新型コロナウイルス感染症の拡大により十分な連携が困難であったが、次年度はPTA、歴代保護者会会長で構成されるOB会や父親の会等、多くの組織と連携を深めていきたい。課題としては、行事への来校者は多いが、学校公開日、道徳授業地区公開講座や父親の会の行事に参加する保護者は少ない。来年度は、保護者・地域と連携をとり、多くの保護者が参加できる取組を取り入れていきたい。

結びに、来年度は新学習指導要領の完全実施の年にあたる。生徒が社会に出てからも学んだことを生かせるように、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成していくことが必要とされている。これから20年、30年先の社会がどのように変化しても、生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現できるよう、本校の教育目標を改訂し、教育活動を見直し、不断に改善していく。